様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ５ 月 ２５ 日現在

機関番号：１２５０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３８１１７０

研究課題名（和文）小・中学校国語科書写における書字過程に着目した硬筆楷書教材開発及び授業開発

研究課題名（英文）Development of teaching materials for penmanship and lesson plans focusing on the Shosha writing process in elementary and secondary schools

研究代表者
樋口　咲子（HIGUCHI, Sakiko）

千葉大学・教育学部・教授

研究者番号：００４３１７３４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,700,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、小・中学校国語科硬筆書写教材を制作した。制作にあたっては、従来解説がほとんどなされてこなかった硬筆の書字過程についてわかりやすく解説するとともに、練習過程にも反映させた。一つの点画を書く上での書写リズムや筆圧のかけかたや、点画から点画へ移動するときの空中での合理的な動かし方についてわかりやすく説明するとともに、動画教材も制作した。
　また、各学年の学習活動に基づいた硬筆教材の開発を行った。特に小学校低学年では、従来字形指導を重視した教材が多かったが、学習活動では罫線内や白紙に配列よく書く必要がある。実際の書字活動に即した教材を制作した。

研究成果の概要（英文）：In this project, teaching materials of penmanship were developed for elementary and secondary school students. The purpose of these materials was to develop the strokes of penmanship that had not been explained sufficiently before, and it reflected the students' practicing process. The textbook and video clips were developed focusing on the writing rhythm, how to apply pressure of a pen, and how to use pen strokes smoothly from point to point in the air.
 In addition, teaching materials for penmanship were developed based on the learning activities for each school year. In the past, almost all the materials focused on the shape of the letters, especially in the lower grades of elementary school. But in this project the importance of arranging the writing on lines on the line and on a white paper through the writing learning activity was clarified. These materials matched the practical writing activities.

研究分野：書写書道教育

キーワード：硬筆書写教材　硬筆動画教材

１．研究開始当初の背景

研究開始当初、本研究を推進しなければならない学術的背景が三点あった。

(1) 硬筆の指導法研究は、硬筆と毛筆との関連指導を図ることに重点が置かれ、毛筆を中心とする学習指導過程にどう硬筆を取り入れるかを中心に研究が進められてきた。そこでは、書かれた結果である字形指導が中心で、書字過程である運筆面はほとんど研究されずにきていた。日常生活に生きる書写教育を目指すためには、手指に負担のかからない楽な運筆で、読みやすく速く書くことができる硬筆運筆法の研究が課題であった。

(2) 字形指導において、点画の書き方や組み合わせ方、部分の組み立て方、配列といった書写の要素で、硬筆には毛筆と違う問題点があるうえ、硬筆の方が改善率が低い。硬筆書写の問題点に特化した教材開発・授業開発の研究が少ないという課題があった。

(3) 各学年の書字活動に応じた硬筆の教材開発や授業開発を研究する必要があった。学習指導要領では基本的に、書写の学習要素を文字を構成していく過程をふまえ、小学校低学年から順に配当している。したがって、低学年では、縦書き罫線の連絡帳に視写したり、生活科で横書き罫線内に記録したりする学習が進む一方で、書写では、そうした学習活動に対応した書き方の学習がわずかにしか取り上げられていない。そして、一字の構成法である点画の長短・方向・接し方・交わり方の学習にほとんどの時間をあてている。低学年からすでに、児童はさまざまな書式に書かなくてはならない状況がありながら、書写指導ではその対応がなされていないのである。さらに、小学校高学年や中学校の文字群の配列指導も、内容を理解して、自分にとっても相手にとってもわかりやすくまとめる書写力をつける指導を目指す必要がある。以上のように、各学年の学習活動に応じた硬筆の教材開発や授業開発の研究が必要であった。

２．研究の目的

本研究は、毛筆に付随して行われてきた硬筆による文字及び文字群の書き方を、運筆と字形の双方から、体系立てて捉え直し、学習活動に対応した教材の整備を総合的に進めていこうとするものである。教材の中に問題のある書き方例等も提示し、どこに気をつけたら整うかを考えさせるアクティブラーニングの視点を入れ、さらに、的確に言葉で説明できる言語活動の充実も目指す。

(1) 小・中学校国語科書写教育において、楷書で効率よく文字や文字群を整えて書ける硬筆の運筆方法を研究する。また、硬筆筆記具の持ち方だけにとどまらず、指や手首をどのように動かしたらよいかわかりやすく解説する動画教材も制作する。

(2) 硬筆書写の問題点に特化した字形指導用教材を制作する。点画の書き方、点画の組み合わせ方（長短・方向・接し方・交わり方）、部分の組み合わせ方（左右・上下・内外）、配列、といった書写の要素において、硬筆書写に関わる内容を整理してまとめる。

(3) 低学年における文字群の書き方指導の欠落や、高学年においてノートに書きまとめる指導が不十分であるなどの実状に対応するため、学習段階に応じた硬筆の教材開発を行う。

３．研究の方法

研究の目的(1)～(3)に対応させて述べていく。

(1) 運筆方法についてはこれまでに、すでに学会で発表し評価を得ている方法があるのでそれらを整理していく。１つ目は、新学習指導要領を受けて、「点画のつながり」と「筆圧」を理解して書くことを目標とした楷書の一単位時間の授業づくりに取り組んだもので、小筆の使用、筆脈の書き込み、カーボン紙の利用に着想したワークシートを活用した実践がある。学習前後の書写力と意識変化の調査分析により、授業の有効性の高さが認められている。２つ目は、現行学習指導要領で重視されている基本点画の理解と指導法に関する研究時の手法である。そこでは、教員養成課程の学生の基本点画の書字実態を、学習指導要領に新たに加わったキーワードである「筆圧」「穂先の動き」に注目して分析して問題点を浮き彫りにした。さらに、毛筆と硬筆双方の効果的な指導法を考案し、その成果をデータで示した。これらの研究の視点を柱として児童・生徒の実態に即した切り口で考察を深め、教材を制作する。

(2) 字形の整え方については、小・中学校国語科書写の視点で字形を整える原理・原則をわかりやすくまとめたものが少ない。小・中学校国語科書写の教科書及び指導書の記載内容を整理してまとめていく。児童・生徒の実態に合わせて実践しやすい原則も新たに考えていく。また、原則一つ一つについて、学年段階にあわせた言葉や表現で児童自ら説明できるような手立てを考える。

(3) 学習段階に応じた教材開発については、児童・生徒の学習活動に対応した書字場面を整理し、低学年から、マス目・罫線・白紙に縦書き・横書きで配列学習が進められる教材を作成する。また、従来の葉書・封筒・便箋の他に、身の回りで新たに使用することが増えた様々な書式の書き方についても整理して示す。

(4) 文字学習入門期の児童の教材について、言葉の学習と文字学習とに興味・関心を高め、楽しく取り組める教材が必要である。言葉のリズムを大切にした教材選定をしていく。また、書字リズムを身につけさせることも大切である。字形学習と運筆練習それぞれに重点のかけかたが違うワークシートを作成し、
将来的に、疲れずに速くかけるようになる運筆リズムを習得させるようにする。児童の書字の実態を調査して整理し、それらをもとに、字形の整え方を自ら考えて書く子どもを育てたい。

４．研究の成果

(1) 字形と運筆の関係についての理論をまとめた。字形は、筆記具が紙面に接している部分である。すなわち、視認される字形は実画部分なのであるが、虚画部分（空中での筆記具の動き）がなければ字形は実現しない。したがって、空中の動きを合理的に動かすことにより、効率良く書くことができ、字形を整えることができる。筆順に従って書く意義はこの点にあり、次画へ移行する最短もしくは合理的な順序を辿る。そして大切なのは、その道筋である。点画は、書き始めの「始筆」、動かす部分の「送筆」、書き終わりの「終筆」（とめ・はね・はらい）の三つの筆使いから成る。終筆から次画の始筆への道筋は、直線で結んだ軌道を移動すれば最短距離（図１－Ａ：点線）となるが、毛筆で文字を書くときには、筆の穂先が乱れずにまとまり次画へ移行できる軌道をとる。そしてこの軌道は、硬筆で文字を書くときも同様である（図１－Ｂ：点線）。大学生の書字の実態調査では、虚画の動きが適切でない書字例のパターン（図１－Ｃ）を多く見る。このパターンでは、虚画が実画と関連を持たずに動いていて、字形が整わない。速く書く必要性が高まる中学生の実態調査でもこの傾向は見られた。字形指導は虚画の運筆指導とともに行う必要があり、小学校の学習指導要領でも「点画のつながりを意識して書くこと」という文言で指導の強化が図られている。以上述べてきた虚画の軌道に加えて、書く速さについて述べる。文字を速く書くためには、実画部分を速く書くことに加え、虚画部分を速く書く必要がある。一方で、虚画を速く書くためには実画の書き方が重要である。図２－Ａは、小学校で指導している始筆と終筆に筆圧をかける運筆法である。この書き方は、丁寧に書く場合は有効に働くが、始筆で筆圧をかける分、運筆が遅くなるため速書きには適さない。速く書くためには、始筆にはあまり筆圧をかけず、終筆にいくほどスピードを上げて筆圧をかける書き方が適している。終筆でそのスピードを一気に止め、その反動で次画に移行する虚画を書くため、虚画のスピードも上げることができる（図２－Ｂ）。

　授業では、筆圧のかけ方を自分で確かめるためにカーボン紙を使用する。カーボン紙を

1-A　1-B　1-C　2-A　2-B

活用した練習方法や、以上述べてきた運筆の原理は、後掲の『30 日でみるみる美しい字になる朝のペン字練習帖』『30 日でみるみる美しい字になる大人のペン字練習帖』にまとめた。また、実際の動きは、動画教材にまとめＤＶＤを制作した。

(2) 小・中学校国語科書写で扱われている字形を整える原理・原則等を、児童・生徒の実態文字調査をふまえてわかりやすくまとめ、後掲の『30 日でみるみる美しい字になる朝のペン字練習帖』で公開した。まず、平仮名・片仮名の書き方のポイントをまとめた。市販の一般向けペン字本には掲載されているが、小・中学校国語科書写向けの書き方で書いた基準文字５０音に書字上の留意点を示してある書籍は意外に少ない。また、平仮名の最終画の終筆を止めるのか払うのかに関してもあいまいな児童・生徒は少なくない。運筆原理に基づいて説明し一字ずつ明記した。また、漢字の基本点画について、硬筆の書き方に特化して解説した。点画の組み合わせ方（長短・方向・接し方・交わり方）・部分の組み合わせ方（左右・上下・内外）の原則も全て整理し、他字への応用を図る視点がもてるよう、複数の教材を掲載した。配列についても詳細な解説と練習方法をまとめた。縦書きでは、中心をとおして書くことが大切であるが、従来の方法である、行の中心に文字の中心を合わせる方法では、文字の中心が見つけられない、文字の字粒がそろわないといった問題が解決しにくかった。そこで、文字列枠を想定し、文字の左右を同じだけ空けて書いていくという、実践によって成果が裏付けられている方法を提案した。その他、さまざまな筆記具でさまざまな様式に書く活動の広がりに対応させて、一筆箋やメッセージカード、短冊の他、多様な書き方に対応できる教材を作成した。

(3) 児童・生徒の学習活動に対応した書字場面を整理し、低学年から、マス目・罫線・白紙それぞれの縦書き・横書きの書式に応じた配列学習が進められる教材を作成した。実際の活動場面を想定し、書く事への興味・関心を高める教材にした。「もちものになまえを書こう（枠の中に適切な文字の大きさで書く）」「母の日のおてがみを書こう（横書き罫線内書字）」「しょくぶつのかんさつ記ろくを書こう（縦書き罫線内書字）」「たなばたのたんざくにねがいごとを書こう。（白紙に書く。余白・行間に気をつけて字粒をそろえて書く。）」などである。それぞれの注意事項は高学年のものとは違い、低学年用に指導事項を減らしつつも問題のある書き方を提示するなどして理解しやすいものにした。これらの

教材は、後掲の日本武道館発行『月刊書写書道』に連載される「書写のきほんを学ぼう」で順次発表していく。

(4) 文字学習入門期の児童用教材を作成した。言葉の学習と文字学習とに興味・関心を高め、楽しく取り組める教材にした。整った文字のイメージを脳内に記憶させやすいように、８㎝四方の大きなマス目に手本を掲載した。そして字形の整え方のポイントを書き込み、ぴたっ、すうっ、ぴょん、という児童がわかりやすい表現で筆使いを表記した。また、同一文字に、字形学習と運筆練習それぞれに主眼を置いた二種類のワークシートを作成した。運筆練習では、終筆の筆使いに注目させ、それを意識したリズミカルな運筆を目指した。字形練習では文字の外形と始筆を示して練習の助けとなるよう工夫した。さらに児童の書字の実態を調査・整理して悪字例を示し、それらをもとに、字形の整え方について自ら考えていく力を養えるようにした。本成果は、後掲の『正しくじょうずに書けるひらがな練習帳』で公開する。

(5) 硬筆書写教育の研究を進めていくうちに、なぜ筆意のある書き方を児童・生徒に指導しているのかを説明できる論拠が必要だと考えた。そこで、硬筆書写教育の歴史を整理し、なぜ今日まで硬筆書写が筆意のある書き方で書いているのかを論述した。後掲の「運筆リズムの視点からみる硬筆文字の諸相と硬筆書写教育の展望―筆意の消失をめぐる史的考察をとおして―」にまとめた。概要は以下のとおりである。公立学校で硬筆書写教育が開始されたのは昭和 16 年からだが、明治後期に硬筆が普及すると、大正期には師範学校附属小学校を中心に硬筆書写教育の研究と教育課程への導入が試みられるようになった。まず、毛筆とは異なる機能をもつ硬筆で文字を書くにあたり、硬筆書法の確立という課題が生じた。当時の実情を岡本清徳は、「殆ど完全に近い毛筆文字をどのようにして硬筆化するか、硬筆研究の第一前提は実はここに存するのではなろうかと考えるのであります。」と述べている。このように、硬筆で毛筆のように書くことを目指したため、今日でも、もともとは毛筆の筆使いである、とめ・はね・はらいを硬筆で書いているのである。「毛筆文字の硬筆化」で始まった硬筆「書キ方」であるが、ノートと鉛筆が学習用具として定着して間もない 1932（昭和７）年にはやくも辻本によって以下の課題が指摘されていた。「横画は横の線ではない。横画は横画としての筆意があり、左払いには左いとしての筆意が厳然と存しているのである。（中略）自然児童の頭では、毛筆文字は毛筆文字、鉛筆書きは鉛筆書きと、全く異なった書写観念を抱くようになったのである。（中略）これが今日の児童の読めぬ書写をなす大原因であることを私は断言したい。」このような筆意の消失の問題は、後にマンガ字や長体ヘタウマ文字の出現で社会問題にまでなった。今日の書写教育の課題である硬筆と毛筆の関連指導の問題は、実はすでにこの頃から始まっていたのである。戦後毛筆「書写」が復活したにもかかわらず、筆意の無いマンガ字や長体ヘタウマ文字が出現する。これらの文字は、社会的自己ポジションの表出という側面を持ちながらも、横書きとシャープペンシルという書字環境の変化が大いに関係しており、一部の運筆は横書き書字の運筆原理にかなってさえいる。加えて、今日の書字傾向を指摘した。始筆を右斜め下方向から突き立てるように入筆し、終筆を払い抜く特徴的な書き方が２割の学生にみられることを指摘した。こうした実態を分析、考察した上で、毛筆を硬筆化した筆意のある書き方は、今後も書かれ続け、毛筆学習の意義もそこなわれないことを論述した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計３件）

①樋口咲子「運筆リズムの視点からみる硬筆文字の諸相と硬筆書写教育の展望―筆意の消失をめぐる史的考察をとおして―」東アジア書教育論叢４巻　2016 年　pp. ９-21　査読無し

②樋口咲子「書写書道教育の指導内容に関する研究課題」　書写書道教育研究 28 号　2014 年 pp.68-71　依頼論文

③樋口咲子・津村幸恵「小学校教員養成課程における板書の授業研究」第 54 回全日本書写書道教育研究会千葉大会紀要 2013 年 pp.57-67　依頼論文

〔学会発表〕（計２件）

①樋口咲子・津村幸恵「小学校教員養成課程における板書の授業研究」第 54 回全日本書写書道教育研究会千葉大会　2013 年 10 月 18 日　木更津市立岩根小学校（千葉県・木更津市）

②樋口咲子「書写書道教育の指導内容に関する研究課題」第 28 回全国大学書写書道教育学会群馬大会　2013 年 10 月 6 日　群馬大学（群馬県・前橋市）

〔図書〕（計６件）

①樋口咲子　ナツメ社　正しくじょうずに書けるひらがな練習帳　2016 年　総頁数 128 頁

②樋口咲子　光村教育図書　中学硬筆練習帳１・２・３年　2016 年　総頁数 40 頁

③樋口咲子　ナツメ社　30 日でみるみる美し字になる大人のペン字練習帖　2015 年

総頁数 96 頁

④樋口咲子　光村図書　小学校書写学習指導書硬筆ワークシート１年～６年　2015 年 各学年 40 頁

⑤樋口咲子　光村教育図書　書写の練習１年～６年　2015 年 各学年 30 頁

⑥樋口咲子　ナツメ社　30 日でみるみる美しい字になる朝のペン字練習帖　2015 年 総頁数 96 頁

〔その他〕（計１件）
樋口咲子　日本武道館発行月刊『書写書道』「書写の基本を学ぼう」　平成 28 年４月号～平成 30 年３月の２年間の予定で、小学校低・中学年を対象とした６頁の連載を担当する。その中で、本研究の成果(4)の教材を順次発表していく。

６．研究組織
(1)研究代表者
樋口　咲子（HIGUCHI, Sakiko）
千葉大学・教育学部・教授
研究者番号：００４３１７３４